

令和7年度第2回軽井沢町博物館等施設運営協議会 会議録

1. 開催日時 令和7年10月20日（月）13：30～14：50（見学終了16：30）

2. 開催場所 軽井沢町中央公民館 第3会議室

3. 出席者 委員：大林義博委員、林利佳子委員、桜井朝教委員、

大藤敏行委員、土屋一男委員、内堀次雄委員、

遠藤孝委員、土屋淳委員、菊池雅乃委員

事務局：宮本教育長、市村生涯学習課長、土屋文化振興係長、

小林歴史民俗資料館長、新井植物園長、

伊藤追分宿郷土館長兼堀辰雄文学記念館長

4. 議 題

（1）令和8年度博物館等施設事業計画（案）について

（2）その他

5. 傍聴人数 0名

6. 議事内容

【生涯学習課長】

皆さん、お疲れ様です。定刻になりましたが、まだ1名来られていませんけど始めさせていただきます。

令和7年度第2回軽井沢町博物館等施設運営協議会を開催いたします。

着座にて進めさせていただきます。

本日は、A委員、B委員から欠席の連絡が入っております。委員12名中10名の出席いただいております。今は9名になりますが、過半数を上まわっておりますので運営規則第11条第2項の規定により、この会が成立していることを報告させていただきます。なお本日の会議録につきましてはホームページで公表させていただきますのであらかじめご了承ください。

それでは次第に入ります。教育長挨拶、宮本教育長よろしくお願いします。

【教育長】

みなさんこんにちは。教育長の宮本でございます。本日はお忙しい中、第2回の会合にご出席いただきましてありがとうございます。また日頃から町の行政あるいは教育行政にご支援いただきまして本当にありがとうございます。今日は第2回ということでですね、皆さんのお手元にありますように令和8年度の各施設の企画、そういったものについてご審議いただきます。それからもうひとつ、皆さんのお手元にパンフレットがありますが、10月1日ご出席いただい方もいらっしゃるけれども、旧三笠ホテルリニューアルということで大々的にいろんなところで宣伝し、お客様も来ているようです。またあとでご報告させていただきますが、こういった形で次のステージへということで博物館がリニューアルされたことはたいへん喜ばしいことです。他の各施設に関しては令和5年度に博物館法が改正されて文化施設とか、あるいは地域との連携とか、こういったものが入ってきますので、よりそういった博物館が活用できるようにご審議いただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

【生涯学習課長】

ありがとうございました。それでは議題に入らせていただきます。軽井沢町博物館類似施設管理運営規則第21条の第1項の規定によりまして会長が議長を務めることになっております。会長よりよろしくお願いいたします。

【会長】

はい、ご苦勞様です。それでは次第に沿いまして、進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず始めに、議題の(1)、令和8年度の博物館等施設事業計画(案)について各館長および係長より説明をしていただきます。なお事業計画(案)の中にあります企画展等の内容につきましては、全体の事業計画(案)の説明とご質問等が終了したのちに行うことといたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは始めに事業計画(案)の1ページをお願いしたいと思います。

歴史民俗資料館事業計画と近衛文麿別荘（市村記念館）事業計画(案)についてお願いいたします。

【歴史民俗資料館長】

資料館の小林でございます。よろしくお願いいたします。それでは座らせていただきます。ではまず1ページでございます。令和8年度歴史民俗資料館事業計画、旧近衛文麿別荘（市村記念館）事業計画でございます。

1 活動方針、2 重点目標につきましては昨年と同様でございますので割愛させていただきます。3 の事業計画でございます。(1)開館期間、令和8年4月1日水曜日から11月15日日曜日。なお11月2日、9日は休館でございます。(2)特別企画展でございます。来年度は「軽井沢町立東部小・中部小学校開校70周年記念 学ぶ・教える展」仮題ではございますが、計画してございます。企画としましては令和8年7月15日水曜日から11月15日日曜日までの4ヶ月間を予定しております。内容につきましてはのちほど企画書の方で詳しく説明させていただきたいと思っております。

①は、特別企画展開催中に企画展に関連した講演会を開催予定でございます。

(3)秋季特別展「ポールジャクレー展 自然と暮らしを見つめて」、こちらは今年も開催しております。期間といたしましては令和8年9月15日火曜日から11月15日日曜日までの2ヶ月間を予定しております。①といたしまして今年度も開催しておりますけれどもポールジャクレー展の開催に合わせまして、旧三笠ホテルでの展示、本年はポスター等の展示を行っております。そちらの方また来年度も併せて計画をさせていただければと考えております。(4)こちら昨年同様でございますので割愛させていただきたいと思えます。説明に関しましては以上でございます。

【会長】

説明が終わりましたので、これにつきまして何かご質問等ありましたら出してください。いかがですか、よろしいですか。ないようですので2ページをお願いいたします。

【追分宿郷土館長】

追分宿郷土館の伊藤でございます。よろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。令和8年度追分宿郷土館事業計画1活動方針と2重点目標につきましては、こちら昨年と同様でございますので割愛させていただきます。3事業計画につきましては、(1)開館期間は年間で、4月1日から翌令和9年3月31日まで、うち7月15日から10月31日までは無休で開館しております。(2)特別企画展の①特別企画展は、「浅間山夜分大焼」と題して開催を予定しております。7月25日土曜日、これは追分の「しなの追分馬子唄道中」のお祭りが開催される前日で、多く人が集まる時期なので、25日から年末12月の末までを予定しております。②企画展「稲垣黄鶴書の世界」、こちらは7月1日の水曜日から10月31日土曜日まで、離山公園旧雨宮邸新座敷で開催を予定しております。これはもう平成19年からずっと開催しているものです。③企画展「江戸時代・馬子たちの仕事一駄賃の相場から」(仮題)と「昔の道具」(仮題)は、令和9年1月から3月までを予定しております。

内容につきましては後ほどご説明させていただきます。（３）のその他につきましては、昨年と同様でございますので割愛させていただきます。以上でございます。

【会長】

追分宿郷土館の説明が終わりました。これにつきまして質問等ありましたら。よろしいですか。それでは次に３ページの堀辰雄文学記念館事業計画(案)について説明をお願いいたします」

【堀辰雄文学記念館長】

令和８年度堀辰雄文学記念館事業計画（案）について説明させていただきます。

１と２は昨年と同様なので割愛させていただきます。３事業計画ですが、（１）開館期間につきましては４月１日から翌３月３１日まで年間開館で、７月１５日から１０月末までは無休で開館しております。（２）特別企画展・企画展につきまして、現在予定しておりますのが、①春季企画展が「『堀辰雄詩集』の世界」と題して、仮題ですけれども３月１９日から７月７日までを予定しております。②特別企画展「堀辰雄と文芸雑誌」、こちらは７月１１日から１２月２７日までを予定しております。内容につきましては、のちほど企画書に沿ってご説明させていただきます。（３）その他につきましては、昨年と同様でございますので割愛させていただきます。以上です。

【会長】

堀辰雄文学記念館の説明が終わりました。これについて質問等ありましたら。よろしいですか。では次の４ページにまいります。軽井沢町植物園事業計画(案)について説明をお願いします。

【植物園長】

前の方と同様に１と２につきましては、昨年度と同じでこちらは説明を割愛させていただきます。３の事業計画、（１）開園期間は４月１日から１２月２５日までを予定しております。（２）企画展といたしましては「花図鑑」の開催、季節に見られます花や果実を紹介する内容のものです。それからもう一つが原寛先生という先生が軽井沢で発見した植物、数多くありますので、そういったようなものの内容について７月から１１月を予定しております。それから講座につきましては、毎年行わせていただいております観察会、それから講演会などを予定してございます。（４）その他についてですが、前年とほぼ同様の内容ですが③の植物園各種整備のところの（ ）書きの対応なのですが、展示館エアコン機器購入につきましては８年度以降に変更したいと思っております。訂正させていただきます。お願いいたします。

【会長】

これにつきまして質問等ありますか。よろしいですか。では最後5ページから室生犀星記念館、ショーハウス記念館、軽井沢型絵染美術館の事業計画(案)についてお願いいたします。

【文化振興係長】

文化振興係長の土屋ですけれどもお願いします。着座にて説明させていただきます。5ページになります。令和8年度室生犀星記念館事業計画こちら1と2については、例年通りですので割愛させていただきます、3の事業計画から説明させていただきます。

1 事業計画、室生犀星記念館の開館になりますけど、4月29日から11月3日となっております。こちらは室生犀星記念館の維持管理と苔の整備なども行っております。資料の収集と保存と広報PR活動につとめてまいります。

次の6ページになります。令和8年度ショーハウス記念館事業計画になります。

1と2の活動方針と重点目標は割愛させていただきます、3の事業計画ですけど、こちらの開館につきましては4月1日から11月3日となっております。こちらはショーハウス記念館の管理契約の締結ということで、箭野司祭、ショーハウス記念館礼拝堂の司祭さんをお願いしております。ショーハウス記念館の建物ですが、こちらは古い建物になっていますので、随時修繕を行っていく予定であります。ちなみに今年については、屋根と外壁を行っていく予定であります。あと、広報とPRにつとめてまいります。

7ページ、令和8年度軽井沢型絵染美術館の事業計画になります。1と2は昨年と同様になるので割愛させていただきます、事業計画になりますけども、(1)開館の期間につきましては型絵染美術館につきましては7月1日から11月3日となっております。館の整備は、美術館のリーフレットの増刷とPR活動につとめてまいる予定で計画をしております。以上となります。よろしくお願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。質問等ありましたら出していただきたいと思います。よろしいですか。

それでは次に令和8年度博物館等施設企画展企画書の内容について各館長より説明していただきますが、初めに歴史民俗資料館企画展についてお願いします。

【歴史民俗資料館長】

歴史民俗資料館の企画書1ページをお願いいたします。特別展の関係でございますが、1主旨でございます。

1947年に新制軽井沢中学校が開校し、再来年度で80周年を迎えます。1956年には東部小学校と中部小学校も開校し、来年で70周年を迎えます。また、すみません記載はございませんが、1957年に西部小学校もこちらの関係で再来年には70周年を迎えるという形になります。本展では小学校や中学校を始めとした学校教育を中心に、夏期大学などの軽井沢町特有の多様な学びの場にも、焦点を当て紹介してまいりたいと考えております。名称は先ほどご紹介の通りでございます。3期間につきましても同じく先ほど説明の通りでございます。4内容でございます。展示は3つのテーマで構成をいたします。第一に小学校や中学校を中心とした学校教育の歩みを振り返る写真や、教科書といった資料を元に各時代の教育の様子を紹介してまいります。第二に大正7年に創設された軽井沢夏期大学によって、生涯学習の面から見た学びの様子をたどってまいります。第三に芸術自由教育講習会、北原白秋を中心に星野で開かれた講習会もございしますが、こちらの方を文学者と地域の、周りとの関わりの様子を紹介してまいりたいと考えております。

特に第一のテーマでは軽井沢町に住む地域の人々の暮らしに密着した展示になることが考えられるため、それぞれの世代に懐かしさや親近感を覚えていただければと考えるため、あるいは文書資料などを展示し、多くの方にお越しいただければと考えております。この関連事業は先ほどご説明の通りでございます。次の2ページをお願いいたします。秋季特別展でございますが、続けて説明をさせていただきます。1主旨でございます。地域住民別荘所有者観光客に軽井沢にゆかりのあるフランス人浮世絵師であるポールジャクレを知ってもらう機会といたします。また軽井沢における芸術・文化、そしてそれらが生まれた社会的歴史体験ということで地域や時代の特性を理解することを目指してまいります。毎年度、異なる作品を展示することにより、ポールジャクレの多様な作品の存在を皆さんに知っていただければと考えています。名称・担当は先ほどの説明等でございます。4内容でございますが、こちら例年このような形でやっておりますが、読ませていただきますと、ポールジャクレが手掛けた多色摺りの版画20点余りと、ポールジャクレの写真パネルを数点展示いたします。令和8年は5回目の開催となりますが、原則として今まで展示されたことのない作品を中心に今後も展示してまいります。また毎年テーマを設定いたしまして、テーマに沿った作品の展示を行っていく予定でございます。関連事業に関しましては先ほどご説明した通りでございます。以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。歴史民俗資料館企画書について質問がありましたら出してください。

【C委員】

1 ページの内容、下から 3 行目、「特に第一のテーマは軽井沢の地に住む地域の人々の暮らしに密着した展示」というこれ、軽井沢の東部小、中部小は載っていても、西部小も古いはずなんだけども。学区制の改革で同時にスタートしているはずなんです、ほぼ。だからその辺のところでなんで西部小を抜いたのか。西部小の方が学校としては、泉洞寺さんもいらっしゃいますけれども、古いですよ。だからその関係で、というのは、たまたま私失念してただけなのですけども、「カルメン故郷に帰る」という、総天然色の映画があつて、この講演依頼を受けたときに、千ヶ滝分校が今の東部小学校が管轄だったんですね。昭和 22 年頃はそんなことがありまして、ただ均一で 1 つのことで、東部小も中部小もあったわけですから、遠くても発地とか、色々分かれていったんだけれども、そんなことで千ヶ滝分校が今のなぜ東部小とくっついたのか、ちょっと分からない部分がありまして、そのことをやったものですからお話しますけれども。全般的に一つの昭和 32 年を伝えるのであれば 3 校とももう町でやりだしたのですから、その辺のところは、なるべくというか、公平の中で発表してあげた方がいいのではないかという気がします。

【歴史民俗資料館長】

丁寧にありがとうございます。おっしゃる通りでございまして、先ほど主旨の説明の中で話もありましたが、もう一度説明をさせていただきますと、1947 年に西部小学校、こちら抜けておりますが、西部小学校ならびに新制軽井沢中学校、こちらが開校しております。で、1956 年には東部小学校と中部小学校が開校しております。名称の方が仮称という形ではございますけれども、70 周年、80 周年という形でこちらの方をクローズアップさせていただきましたが、C 委員からのご指摘の通り、西部小学校含めた 3 校とそれに軽井沢中学校で 4 校、こちらの方を同じく扱っていいのかなとは学芸員と話しております。ですので、題名の方もまたちょっと考えさせていただこうかなと思っておりますけれども、4 校を均等な取り扱いという形でいこうと考えております。以上でございます。

【C委員】

あと中学校の件についても。草軽鉄道のことを芦原伸氏の『草軽電鉄物語』という冊子が出たんですけども、たまたま頼まれた講演会の時に、ある一部の人が「中学校は鶴溜に始めはあつて、今のところに移ったんだよね」という話を講演でされたと言って、まるっきり事実無根の話であつて、というようなことも絡んでいますので、この中ですから言えますけれども、小説家でも自分の好きに書くことありますので、そのことはちょっとだけ説明してください。

あと3ページの駄賃っていう言葉を、これはまた別（郷土館）だね。馬の「駄賃」って言いますが、今の子どもたち、駄賃って言われても全然分からないですからね。そこをどういう表現で、どう言ってあげたらいいのかな、ちょっと疑問で。先に行ってしまいましてすみません。以上です

【会長】

それはあとでいいですかね。歴史民俗資料館で他にありますか。

【D委員】

関連事業の中でも講演会とあるのですが、具体的な講師はもう選定はされていらっしゃるのですか。

【歴史民俗資料館長】

まだでございます。

【D委員】

分かりました。

【会長】

他には。

【教育長】

東部小学校、中部小学校なんですけども、一番上のこれを見た人が、東部小も中部小も、もう70周年を今年やっているんですよ。だからその行事があったのに、来年70周年なのとかという、そのへんの齟齬がないように、連絡を取り合いながらやっていただければと思います

【E委員】

難しいところですね。

【会長】

他にはよろしいですか

【F委員】

1ページの内容の部分の中で、「第三に芸術自由教育講習会による文学者と地域の学びとのかかわりの様子」というのは、具体的にはどんなようなイメージですか。

【歴史民俗資料館長】

大正時代に北原白秋らが中心に、あそここのところで一

【G委員】

今のトンボ湯辺りのところにある、あそこら辺で、講習会をしていたとか、土屋長平さんが書いた文にもある。その関係、10人くらいの文学者が集まってやったそのことですね。

【歴史民俗資料館長】

そうですね。星野でそういった活動を当時、大正時代ですから新制の前ですので、ある程度、どちらかというと硬いって言いますか、自由がない教育って言うんですかね、言い方悪いかもしれませんが、そういった教育だったところに、そうした文学者の方たちが中心に集まって自由教育ですね、そういったものを中心に、今でも展示がされていたりしますけれども、そういった教育も夏期大学などと合わせて開催していく、軽井沢の1つの教育の原点といいですか、そういったことが行われたという歴史として、紹介すべきかなという風に考えております。

【会長】

ありがとうございます、他には。それでは次に3ページの追分宿郷土館企画書についてお願いいたします

【追分宿郷土館長】

令和8年度追分宿郷土館企画書につきましてご説明させていただきます。

最初に特別企画展ですが、まず主旨としまして天明3年の浅間山噴火に関する絵図の複製を作成し、これらを中心として紹介する。江戸時代中期に発生したこの噴火はおおよそ3ヶ月にわたり続き、その様子を描いた絵図が残されています。噴火にかかわらず、浅間山は山麓に位置する軽井沢の歴史と深く関わっていることから、そのことを含めて、同テーマで展示することとします。こちらにつきましては昨年度から文化振興係の職員とともに、この地域でよく教科書に載ってくる資料などをお持ちの方の浅間山の噴火絵図などを調査してまいりまして、これらの資料、本物をお借りするのはちょっとなかなか古くて退色など心配なので、レプリカを作成して、その資料を中心に、噴火の経過とともに様子などを紹介することを考えております。名称としまして追分宿郷土館特別企画展「浅間山・夜分大焼」。これは小諸の方がお持ちの浅間山が噴火している、教科書などにも載っている有名な絵図ですが、その絵図に「夜分大焼之図」と記されているので、そこから今のところ仮ですが、仮題として考えています。期間は7月25日から12月末。内容としまして今回作成する噴火絵図のレプリカを中心に展示する。また史料をもとに年表や解説パネルを作成し当時の噴火の様相や被害について説明する。噴火以外でも浅間山に関する資料を用い、軽井沢と浅間山、というテーマに基づいた紹介を行う。

ということで噴火だけだとちょっと悲慘な感じばかりになってしまいますが、生き生きとした人々の暮らしも含めて浅間山を中心に郷土館にある古文書等と共に紹介していきたいと考えております。関連事業としましては天明の浅間山噴火をテーマとした一般向けの教養講座と小中学生向けの火山教室を予定しております。今年度、子供向けに講師の先生が紙芝居を作ってきて、浅間山の天明の噴火の経過を説明していただいたのですが、とても好評で、「また」という声が上がっておりますので、その辺を考えながら準備を進めたいと考えております。

次に企画展でございます。①主旨としまして追分ゆかりの書家 稲垣黄鶴が没した翌年の平成 19 年から黄鶴の書斎に似ている離山公園旧雨宮邸新座敷で、遺族の協力のもとテーマを決め企画展を開催しています。リピーターも多いことから継続して開催しております。名称として「稲垣黄鶴書の世界」これを大きなタイトルとして、テーマに沿った副題をつけて展示していきたいと思っております。期間が 7 月 1 日から 10 月 31 日を予定しております。次のページをお願いします。内容としましてはこれまでも季節、軽井沢、ふるさなどという形でテーマを決めて、稲垣黄鶴の作品を選びながら展示しております。来年度につきましてもこれから検討して展示していきたいと考えております。

企画展②、主旨ですが、例年小学 3 年生の社会科单元「昔の道具」の学習時期に合わせて資料に触れることのできる箇所も設置したコーナー展示を行っています。本年は「昔の道具」を展示しつつ、追分宿を中心に「馬子」「駄賃」に焦点を当てた展示を合わせて行う。名称につきまして、先ほど委員からご指摘がありましたが、「江戸時代・馬子たちの仕事―駄賃の相場から」、一応仮題でつけています。それからもう一つ「昔の道具」につきましても、併せて予定しております。期間は 1 月から 3 月。こちらは小学校の社会科の单元がちょうどその頃昔の道具ということで特に西部小の子供たちが毎年来てくれるのですけども、子どもたちから非常にリクエストがあるので、これは継続してやっていきたいと思えます。また、郷土館にある古文書なども学芸員が一生懸命、今史料を整理しているのですけども、その中でまずは馬子、追分と言え、っていう感じで馬子に焦点を当ててと考えております。先ほどご指摘をいただいた副題「駄賃の相場から」の「駄賃」という言葉が子どもたち、せっかく来てくれるのに難しいのでは、ということで、考えていきたいと思えます。内容につきましては今申し上げた通りなんですけども、道具と馬子たちについては収蔵資料に限って紹介する予定でおります。以上です。

【会長】

追分宿郷土館の企画書についてです。説明がありましたけどもこれにつきまして、質問等ありましたら。

【H委員】

浅間山については、群馬県の嬭恋村の発表と小諸市の小諸の発表、死亡者数ですが、当時ですから今のインターネットとか携帯なんてないもんですから、群馬県では何名くらい死んだとか、長野では何名、小諸では何名くらい死んだか、数字がだいぶ違うんですけど、そこらへん調整して発表する。どうやってやったらいいか私も分かりませんが、昔のことですから噂話を伝わってきたのを多分やったんだろうと思いますけどね、両方。そのことを知ってる人がいれば群馬県から見た数字が違うんじゃないか、長野から小諸から来ると群馬の数字が違うんじゃないかって、行政けっこうそういうことがありえるからちょっと頭の中に入れといて、私もどうやっていいか分かりませんが、そのところ考慮していただければなと思います。以上です。

【追分宿郷土館長】

貴重なお話伺ったので参考にさせていただき、展示に生かしたいと思います。

【I委員】

今の話に関連するんですけども、群馬県には確かやんば天明泥流ミュージアムっていうのがあるようですので、そこら辺の資料の展示と色々確認していただいた中でやったいただいた方がいいのかもしれないかなと思います。

【追分宿郷土館長】

ありがとうございます。

【H委員】

鎌原のあそこのお寺でお経をあげるおばさんたちがいて、その裏にも資料館みたいなのがあったんじゃないかな。多分死者は群馬県の方が多かったでしょうからね。軽井沢では2人か3人か、一桁しか確か死んだ人いないって見たような気がしますけど、その辺も浅間山周辺ですので、遠足で子どもたちが鎌原の資料館にも行くので。そうすると長野やその辺から行く子どもは、不思議ですよ。ちょっとそういう情報伝達がまだ十分な時代じゃなかったということをはっきりあれして（示して）もらった方がいいのかという感じがします。当時生きていた人はいないですからね。以上です。

【会長】

他には、よろしいですか。では次に5ページの堀辰雄文学記念館の企画書についてお願いいたします。

【堀辰雄文学記念館長】

令和8年度堀辰雄文学記念館企画書について説明させていただきます。最初に特別企画展につきまして、主旨、文芸雑誌は堀辰雄の作家としての活躍と成長において非常に重要な場であった。堀は、種々の同人雑誌(文芸雑誌)を通して海外文学を翻訳紹介したり、文学者とのネットワークを形成し、芸術派の文学の基盤を育成したりした。特に昭和21(1946)年に長野県小諸市で創刊された季刊誌「高原」は軽井沢とその近辺にゆかりのある作家が中心メンバーとなった同人雑誌である。本企画展では堀の携わった雑誌や関連する文学者の書簡等を展示し、同人雑誌を通じた堀辰雄の功績と軽井沢における文学者たちの交流を紹介する。名称としましてこれも仮題なんですけれども「堀辰雄と文芸雑誌」、期間を7月11日から12月27日と考えております。内容としましては、収蔵資料の初出雑誌・書簡・初版本・写真・遺愛品などの資料やマップ・解説パネル等を展示して、雑誌に通じた堀の功績や軽井沢における文学者の交流等を紹介する。

関連事業としましては毎年開催しておりますが、「緑陰講座」や「堀辰雄を語る会」でこのテーマに沿った講師の先生をお招きしてお話しいただければと思っております。

次のページをお願いします。企画展につきまして、まず主旨ですが、『堀辰雄詩集』は昭和15(1940)年に山本書店から出版されたもので、堀辰雄の詩3篇と深澤紅子の挿画を収める堀辰雄唯一の詩集である。そのうちの「天使たちが…」で始まる詩には軽井沢が描かれている。また本詩集は立原道造と追分の関係語る上で欠かせない位置を占めている。令和7年度に新収蔵予定の『堀辰雄詩集』には堀による署名と「軽井沢にて」の文言が添えられている。本企画展ではこの『堀辰雄詩集』を中心に、詩の初出雑誌、軽井沢・追分にゆかりのある文学者たちの書簡、紅子による挿画等を展示し、『堀辰雄詩集』の頃の堀の文学世界と軽井沢を紹介したい。名称としましては「『堀辰雄詩集』の世界」、これもまだ仮題ではございます。期間につきましては来年度3月19日から7月7日までを予定しております。内容につきましては、『堀辰雄詩集』B版や書簡・メモ・初出雑誌・初版本・写真等の収蔵資料を展示し、『堀辰雄詩集』の作品の背景や堀辰雄や他の文学者と軽井沢・追分との関係、堀辰雄の文学生活の出発点としての詩の世界を紹介する。関連事業としましては期間中の堀辰雄の命日の時期に開催している野いばら講座を開催したいと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。これにつきまして質問等ございましたら。よろしいですか。では次に7ページの軽井沢町植物園企画書についてお願いいたします。

【植物園長】

説明いたします。ミニ企画展①番といたしまして、主旨ですが、多様な生物植物が生育します軽井沢の植物を中心に、栽培しております軽井沢町植物園には四季を通じまして、多くの植物の生きている様子も見る事が出来ます。本ミニ企画展では季節毎に見られます多様な植物につきましてその生きている様子、生態写真ですとか標本などを活用させていただきます。そして、それぞれの名前、植物の名前の由来ですとか特徴などを紹介して地域の植物につきまして興味関心を喚起することを目的として考えております。名前はミニ企画展「花図鑑」を仮題としております。期間は令和8年4月4日から12月13日日曜日を予定しております。内容につきましては職員が撮影しました写真、それから標本などを活用します。そして名前の由来ですとか、植物を見る時のポイントなどを紹介します。利用者が使うことができますワークシートなども用意いたしまして、利用者の学習支援につなげる予定であります。

関連事業といたしましては、これも毎年行わせていただいておりますが植物観察会を4月から12月の間におよそ月に2回行う予定で計画しております。

次に②のミニ企画展について主旨からご説明させていただきます。日本を代表いたします国際的にも大変有名な植物学者であります原寛先生という先生がおられます。この先生は少年時から軽井沢町の別荘を植物観察・研究の場として訪れておられました。1974年には『軽井沢の植物』という植物の本をお出しになられております。その中で軽井沢には約1000種類の野生の植物が育成することを明らかにされて、軽井沢の植物のいろいろな種類が見られる、そういった多様性が他の地域に比べまして非常に高いことを示されております。本ミニ企画展では先生がお亡くなりになられて40年になります令和8年に博士が軽井沢で発見した植物について非常にたくさんあるのですが、その一部をご紹介しますことで地域ゆかりの植物学の先生であります原寛先生が軽井沢に残したものについて、興味関心を喚起することを考えました。名称は仮ですがミニ企画展「原寛博士が軽井沢で発見した植物」。

期間は令和8年7月から11月を予定しております。内容は原寛先生が軽井沢で発見した植物につきまして、基準標本、名前を付けて発表する時に元になった標本が世界に1点あるのですが、この標本の写真、それから記載文献などを活用しましてその植物が生きている様子をご紹介しますと考えております。また先生の著されました本ですとか関連の文献などについても収集し紹介する方向で行きたいと思っております。関連事業につきましては1番のミニ企画展と同じようになります。以上になります。よろしくお願いいたします。

【会長】

はい、ありがとうございました。植物園の企画書について何かご質問等ございますか。

【J 委員】

原寛先生の国際的に有名な植物学者の『軽井沢の植物』、その本は入ってる？
この本を見たらどんな人だったのかなと思うかもしれないと思いますが、という意見です。

【植物園長】

参考にしたいと思います。

【会長】

他には。それでは企画書のそれぞれのところで企画書の言い忘れたこととか全体を通して。はいどうぞ

【K 委員】

最初の事業計画書の方なんですけど、一番最初 1 ページのところに出てきた「あめりか屋建築」という言葉が出てくるんですけども、私機会がありまして 10 何年か前にこれの軽井沢町にあるあめりか屋建築が、どのくらいあるんだろうと写真で、建築士会が長野県の方から委託されたかなんかで、確か写真を撮った記憶があるんです。町としてはそのあめりか屋建築っていうものの扱い、これに出てる近衛文麿別荘以外でも、こういったものの資料あるいは写真とか何か収集したものがあるのでしょうか。

【歴史民俗資料館長】

はい、K 委員さんのおっしゃるご指摘でございますが、資料館の 2 階には昔の建築のいろいろな写真パネルとかあるので、そちらの方はご覧いただければと思うのですが、特段細かく収集したっていうものは、ないのかなと考えております。

【K 委員】

私ちょっと思うんですけど、今、写真がデジタル化かされて、収集するにも非常に扱いやすくなっていると思うんです。今だからこそ、その辺を町として、いろんなものが残っているんだというものを、1 回整理する必要があるんじゃないかと思うんです。相当まだあると思うんですよね。私が 10 何年か前に写真を撮った時に確か 50 何ヶ所写真を撮った記憶があるんですけど、確かその時はあめりか屋が中心だったと思うのです。それ以外の建物も当然あったと思うんですけど。

何年か前もそういう建物の1つが、所有者の方でどうにもならないということで処分したという経過もあるんですけど、町でそれを収集するとか、どうのこうのっていうのは、これはやっぱり軽井沢町はよその町と違って数が膨大すぎちゃって、とてもそんなの出来る話じゃないんで、写真ぐらいせめて、復元はできませんからね。そういったものを集めるにも、最後のチャンスのような気がするんです。ご意向を聞かせてほしいです。

【歴史民俗資料館長】

今、図書館を中心に博物館施設でもデジタルアーカイブということで、様々な資料をですね博物館内外の、そういった写真を集めて、その記録を全国の方に見ていただいて、研究に役立てていただきたいという形で、そういったものが少しずつ進んできています。軽井沢町も少し進んできているのでそういったものを整備していく上で、それらの資料や写真あるいはもっと他のものもあるかもしれませんが、整備を進めて出していければと考えております。以上でございます。

【会長】

はい。他にどうぞ。

【L委員】

堀辰雄文学記念館の企画展に関してなのですが、季刊誌「高原」の表紙を小山敬三画伯が描いてらっしゃると思うのですが、前にポールジャクレー展を開催した時にも、ここはつながりがあったので軽井沢にゆかりのある作家というか、画家も含めて軽井沢とゆかりがあるという点でもちょっと取り上げていただけると嬉しいかなと思います。

【堀辰雄文学記念館長】

ありがとうございます。ぜひ検討させていただきます。

【L委員】

数年前に、たまたま「高原」の表紙を何枚か見たもので、今やっと一致しました。

【堀辰雄文学記念館長】

ありがとうございます。

【M委員】

原画があるのですか。

【L委員】

あります、あるはずなんです。ただ雑誌としては非常に古いので、表紙を出す形で企画展で拝見しましたが、それがあると聞いております。

【会長】

続けて他によろしいですか。はい、ないようですのでその他に入ります。
ちょっと5分ばかり休憩とします。

—5分休憩—

【会長】

それでは休憩前の続きで、次は次第(2)のその他にまいります。委員の皆さまは、配った資料の中で意見出していただきましたけど、他にはよろしいですか。何かありましたら。

【N委員】

質問ということではないのですが、三笠ホテルが10月にオープンしておめでとうございます。町のこういう各施設の印刷物をぜひ三笠ホテルのコーナーで恐らくやっていると思うんですけど、常時そういう場所にあるとかなりの方が三笠を訪れると思いますので、よろしいのかなと思います。以上です。

【会長】

資料の展示ですね。

【N委員】

そうですね。

【会長】

ちなみにそういうコーナーはあるのですか。

【文化振興係長】

三笠ホテルの中で、他の追分宿郷土館とか堀辰雄文学記念館、そういった全部の施設については壁（コーナー）がありまして、そちらのほうに並べてはあります。今N委員の言うところの町内の施設っていうのは民間の施設とかも混ざってという話ですか？

【N委員】

いや、町の文化施設についてです。いろんな展示や催しのご案内、あとは来た方が回れるように何かこう来た方の持っていけるような資料があると、三笠ホテルに来た人が追分の界隈も回れるかなって思ったんですけど。

【O委員】

ちょっと今のことと関連しますが、何か共通券みたいのを作ったこともあったのかな。今もありますかね。

【文化振興係長】

3市町で、共通のミュージアムのものがあります。3市町のを今やっております、若干割引にはなるんですけど、三笠だとすると1,000円のところが900円になる、というのはあります。

【O委員】

認知度が低いですね。年間通して利用人数は少ないのかなと。

【文化振興係長】

今後、そちらの方もPRにつとめていきたいと思います。

【P委員】

人数と言えば、(10月)1日のオープン以降どのくらい入ったのですか。

【会長】

そ

それについては、次第(2)のその他の方で報告があるみたいです。

【Q委員】

報告を聞いてからで。

【会長】

委員の皆さん、他によろしいですかね。それでは事務局の方からお願いします。

【文化振興係長】

今話題に上がっておりますが、旧三笠ホテルが10月1日にオープンいたしました、今お手元にあるようにパンフレットですが、ものすごくきれいでいい感じになっておりますが、実際は土砂降りの大雨で大変でございましたけれども、午前中オープンできました。それで1日にどのくらい人が来たのかという話になるのですが、午後2時からオープンいたしまして、午前中はリニューアルオープンの式典をやっていたので、2時からオープンしたんですけども、その際正式に数えたわけではないですけども、オープン前に、30人から40人も入口のところに並んでおりました。今か今かと待ってる人が多くいまして初日は、2時から5時までの開館時間でしたけれども118人の入館者がありました。今出ている数字で言いますと、10月15日水曜日までなんですけど、トータルで4,299名の方が入館されております。平均すると15日で割ると、1日に286名でこの時期、滑り出しとしては上々な滑り出しじゃないかと分析しております。以上です。

【R委員】

このチラシは式典の時のチラシですけれども、皆さんが受付でもあったチラシは別になるのですか。

【文化振興係長】

はい、これではなくて、さらに三つ折りの小さいものなんですけども、かなりきれいにできています。委員さんに配らせていただきます。

【R 委員】

せっかく作ってあるんですけども、ここに地図が載っているんですけど、このところを少し拡大していただいて、この地図をもう少し広げていただくと追分のところまで、堀辰雄文学記念館とか、町の図書館は出てますね。ですから追分方面の施設も載せてもらおうととてもいいかなと。そうするとそれによってさっきお話があった通り、チラシを置いていただくのもひとつの手ですが、これもひとつ用意していただければ、そちらまで行けるような形にぜひ誘導していただくようなチラシを作っていただくことが必要なのかなと思うんですけども。ここだけが人数多くてもあれですけど、少し西の方にも来ていただけるようにうまく作っていただきたいと思います。

【会長】

合わせてね、もうちょっと南にも広げてもらって。

【S 委員】

もう少し北の方にも広げてもらって、大きくなったらいいね。

【R 委員】

全町網羅できると一番いいんですけどね。ごちゃごちゃしちゃうけど。

【文化振興係長】

いろいろ出来ることはやっていきたいと思います。

【R 委員】

期待しております。

【会長】

次は改正博物館法ですが、お願いします。

【文化振興係長】

もう1つは、博物館法の一部を改正する法律の概要っていうチラシを配らせていただいております。説明させていただきます。令和5年に改正されている法律になります。施行と経過措置っていうのがありまして、これ読んでみますと、「既に登録されている博物館は、施行から5年間は登録博物館とみなす」と書いてあります。というのはですね、5年が切れると登録から除かれてしまうということが書いてあります。

軽井沢に今、博物館の中で登録されている博物館は、追分宿郷土館と歴史民俗資料館があります。2つの資料館については、引き続き登録ということをしていかなければならないのかなってということからです。令和5年の4月1日から5年間の猶予があって、令和9年度中にこのような処理、こちら登録に向けて準備進めていかなければならない、ということが書かれております。今のところこの2つなのでそちらの方も進めていく予定で、登録することによって、どういう効果があるのかということが気になるんですけれども、平たく言うと、登録されるということはそれだけ博物館の信用度が上がります。信用度が上がればどういうことになるというかですね、企画展ひとつやるにしても、いろんなところから資料を借りてきて展示をするといったことがあるんです。追分宿郷土館と歴史民俗資料館につきまして、登録に向けての準備を進めていきたいということで事務局は考えております。令和8年度、9年度、そういったところを報告させていただければと思っております。それに関連する話ですけど、他にも博物館いくつかあるんですよ、堀辰雄文学記念館と植物園は博物館類似施設っていうことになりますので、そちらの方も今後こちらの法律に基づいて登録はできるのかっていうことを新たに検討していきます。新しい法律の中でどんな施設が登録できるのかという基準があります。その基準がどんなことかと言うと、学芸員がいるのかが1つの基準です。もう1つは、年間150日開館しているとかということが基準になってきます。この2つの基準をクリアできれば、新たに堀辰雄文学記念館とか植物園も新しい博物館法に基づいて登録を検討していかなければならないのかな、ということで考えております。事務局とすれば、いろんな方向への可能性を検討いたしまして令和8年度9年度に方向性を進めていきたいということで報告させていただきます。以上となっております。

【会長】

次は③ですね。

【文化振興係長】

令和7年度の関係になります。今、表にあるオレンジ色の令和8年度の博物館の施設事業の計画書(案)の中の一番後ろのページにスケジュールを、令和7年度文化施設のイベントスケジュールをお配りさせていただいております。これからのスケジュールを簡単に説明させていただきますと、歴史民俗資料館、追分宿郷土館、堀辰雄文学記念館では現在、草軽展、浅間根腰のビスタ、「美しい村」の関係など企画展をやっております。今後につきまして、11月15日から歴史民俗資料館は冬季休館となります。1月に、追分宿郷土館では「昔の道具と暮らし」展、堀辰雄文学記念館では「堀辰雄の装幀」というミニ企画展を行っていく予定ということで、ご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

【会長】

次は先ほどの会の前にも話がありましたよね。

【文化振興係長】

はい、会議録に関しましては、先ほどもお話ししましたようにホームページで紹介させていただきます。公開前に委員の皆様を送付させていただきます。

よろしくお願いします。

【会長】

次も続けてお願いします。

【文化振興係長】

はい、続きましてこの会が終了後、今紹介させていただきました企画展をそれぞれ見て回っていただきたいと思います。マイクロバスをご用意させていただきますので、下の雨除けでお待ちいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

以上で質議についてはすべて終わりになりますけれども、何か言い足りないこととかありますか。よろしいですか。はい、S委員。

【S委員】

あの草軽の企画展やっておりますけれど、話の中の報告では8月はいつも400人くらいで、今年は3倍1,200、1,300人が入ったと話だけは聞いておりますけれどもその辺はどうでしょうか。

【歴史民俗資料館長】

資料館の年間者数っていうことで報告したいと思います。おかげさまで今年度、草軽電鉄展を開催させていただいております、9月までの来館者数今年3,997名、昨年は1年間で2,986名でしたので、それより9月の時点で1,000名ほど上まっております。なお平成15年から冬季休館っていう形で歴史民俗資料館閉館させていただいておりますが、本年10月もう半月ほどと、11月が残っておりますが過去最高という形で入館いただける感じでおります。皆さんご協力いただき本当にありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。他にはよろしいですか。それでは私の進行はこれまでにありますので、事務局にお返しします。

【生涯学習課長】

会長、進行と仕切りの方、ありがとうございました。委員の皆さまも貴重なご意見をいただきましてたいへんありがとうございました。これをもちまして博物館施設運営協議会を閉会させていただきます。ご協力ありがとうございました。

【文化振興係長】

バスは2時50分に出発しますので、それまで下のロビーでお待ちいただきますよう、よろしくお願いします。